

第24回多職種勉強会 アンケート結果

1.開催概要

開催日	令和8年8月5日(水) 19時～20時30分
開催場所	オンライン開催(Zoom)のみ(配信・市役所5階特別会議室)
テーマ	認知症と共に暮らす多職種連携-早期発見と地域とのつながり-
参加数	103アカウント(事務局含む最大時) / グループワーク45名

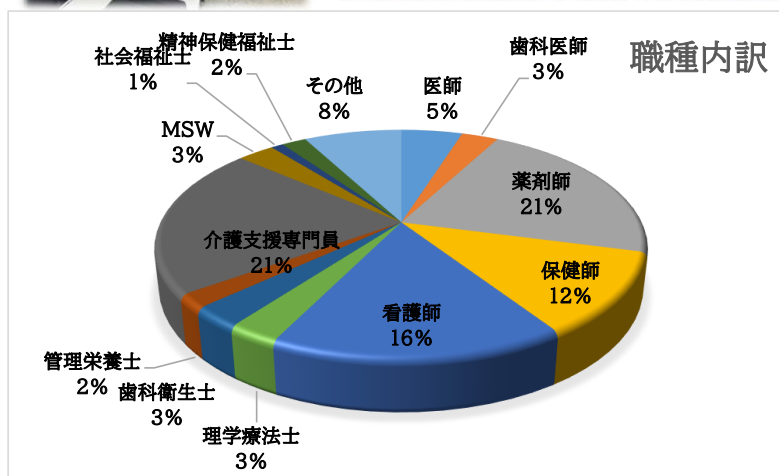
今回は「認知症と共に暮らす多職種連携-早期発見と地域とのつながり-」をテーマに勉強会を開催し、103組の方にご参加いただきました。

話題提供には①松阪市第一地域包括支援センターの辻裕子氏より関わったケースの事例提供、②松阪市民生委員児童委員協議会連合会の小林正則氏より民生委員の活動紹介、③松阪市認知症初期集中支援チームの下岡文代氏より令和7年度の活動実績を含めた情報提供を発表いただきました。連携を深めていくため他機関の活動を理解する貴重な時間となりました。

参加希望制のグループワークは45名にご参加いただきました。話題提供の感想や、認知症の方が地域で暮らすためにできることについて異なる職種の方と意見交換をしました。これからも勉強会を通して松阪地域の多職種連携に貢献できるよう努めてまいります。お忙しい中ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

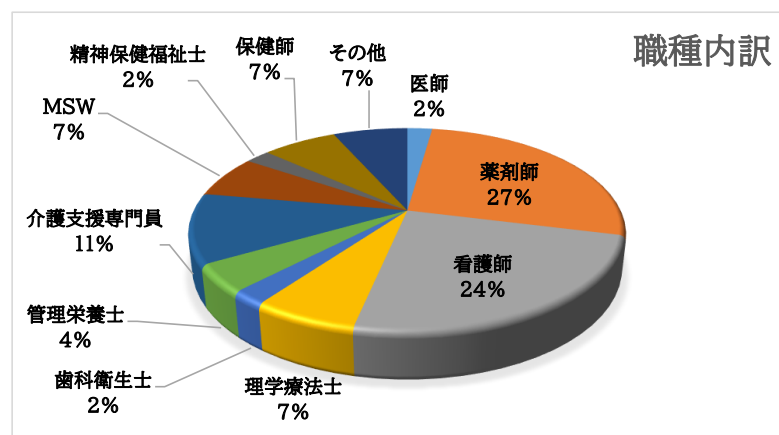
2.参加者内訳

医師	5
歯科医師	3
薬剤師	22
保健師	12
看護師	17
理学療法士	3
歯科衛生士	3
管理栄養士	2
介護支援専門員	22
MSW	3
社会福祉士	1
精神保健福祉士	2
その他	8
合計	103



3.グループワーク参加者内訳(参加希望制)

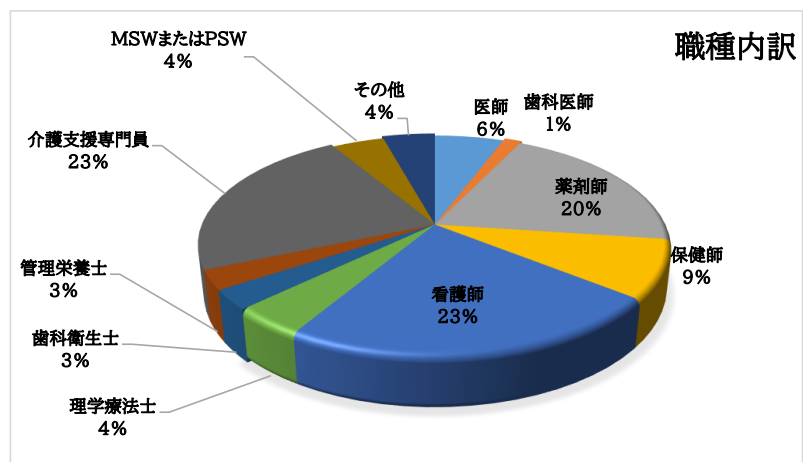
医師	1
薬剤師	12
看護師	11
理学療法士	3
歯科衛生士	1
管理栄養士	2
介護支援専門員	5
MSW	3
精神保健福祉士	1
保健師	3
その他	3
合計	45



4.参加者アンケート結果(70回答)

①職種を教えてください

医師	4
歯科医師	1
薬剤師	14
保健師	6
看護師	16
理学療法士	3
歯科衛生士	2
管理栄養士	2
介護支援専門員	16
MSW、PSW	3
その他	3
合計	70



②話題提供についての感想

①事例提供(松阪市第一地域包括支援センター) 辻 裕子氏

とてもよかった	49
よかった	21
合計	70

②活動紹介(松阪市民生委員児童委員協議会連合会) 小林 正則氏

とてもよかった	48
よかった	22
合計	70

③情報提供(松阪市認知症初期集中支援チーム) 下岡 文代氏

とてもよかった	44
よかった	25
その他	1
合計	70

③グループワークについての感想(複数回答可)

とてもよかった	19
よかった	20
話しやすかった	8
次回以降はやめてもらいたい	0
次回以降も取り入れてほしい	8
話しにくかった	1
操作が分かりづらかった	0
合計	56

④今回の勉強会で印象に残ったことや今後に活かしたいこと

医師

- ・包括支援センターの職員が診察に付き添っているケースがあることを知り驚き、負担のないようにお願いしたい。
- ・介護職員の参加が課題。

薬剤師

- ・各機関の活動内容が知ることができ良かった。
- ・「医療の理想と生活の現実とのギャップをどう埋めていくか」という講評が印象に残りました。とても大事だけど難しい課題だと思います。
- ・一包化を拒否していた方が医師から勧められOKしたこともあるので、連携は大切だと感じました。
- ・多くの職種が関わることが、利用者さんによりよいと改めて感じました。

保健師

- ・事例を通して支援者の困りごとや取り組みがよく分かり、参考になりました。

看護師

- ・一般の市民はその時が来なければ知らないことも多い。地域で自治会や民生委員等が連携して早期から対応していくことが大切だと感じました。
- ・認知機能低下の見られる方の症状や生活への支障に気づいた人がそのままにせず、適所に連携を取り、みんなで本人や家族を見守り、支援していくことが大切だと改めて感じました。
- ・早期からの対応が大切だと感じました。どこへ誰がどのように相談すればよいのか、地域への啓発活動の大切さや、地域で活動されている方の働きを知ることも大切だと感じました。

理学療法士

- ・民生委員の方々の地域でのご活躍が非常に理解でき、勉強になりました。
- ・認知症の方の話の進め方やサービスへの繋ぎ方、民生委員さんの話を聞いたことは大変参考になりました。

歯科衛生士

- ・独居で認知症の方は意外と多いこと、服薬管理の問題、認知症の啓発の大切さ、本人やご家族が安心感を持って頂けることがよいケアにつながる。情報共有することを心がけていきたいです。

管理栄養士

- ・包括支援センターと居宅介護支援事業所の介護支援専門員の役割の違いや、民生委員の役割・活動、認知症初期集中支援チームの役割などがよく分かってよかった。

介護支援専門員

- ・専門職につながる前の地域での活動を知っていただけたことは良かったと思います。
- ・医療、介護に拒否のある方、よくあります。本人が自覚されないのではつながりにくい。
- ・認知症支援では支援者を関わる人を増やしていき、チームアプローチが重要だと感じました。地域で認知症の方が生活するためには、認知症の方やその家族、地域の方が抱える不安を解消して、安心してもらえるような取り組みができるかどうかが大変だと感じました。
- ・民生委員さんの活動内容について知ることができてよかったです。今後、積極的に連携をしていきたいと思っています。
- ・民生委員さんと相談支援機関とのつなぎの部分で、民生委員さんの地域での活動を十分に活かせるように、相談支援機関の受け止め方(スキル)や相談支援機関同士の繋がりを充実させることが大事だと感じた。
- ・サービス利用がないと居宅介護支援事業所には相談しにくいと耳が痛い話でした。要支援の人にも通院時情報連携加算がいただけると幸いですね。
- ・参加者にとっては身近ではない話題提供だったようです。各機関を知っていただく良い機会でした。ただグループワークの人数が少なく寂しいですね。
- ・話題提供を聞き、要点を整理し福祉に携わらない方々が聞いても内容を理解できるよう、相手に合わせた伝え方を意識することが大切だと感じた。

MSW

- ・包括と初期中のすみ分け、民生委員の関わりについて知ることができました。
- ・民生委員さんの活動の幅広さが分かりました。
- ・精神科領域では比較的恵まれているこの地域で、それぞれの社会資源を利用し問題解決に役立てていきたいです。

その他

- ・それぞれの役割を知らないと支援は進まない。困っていることを専門職が察知し、相手の気持ちになって思いを傾聴する。
- ・民生委員児童委員さんの活動について端的にお話いただけて分かりやすかった。グループワークで認知症の方の相談先についての質問がありました。相談先について意外と知られていない…ということを感じました。
- ・日々多職種の方の活動内容、多職種の連携の重要性がよく理解できるそれぞれの発表であった。今後当病院でもお力になっていきたい。

⑤今後開催してほしい勉強会のテーマについて

- ・災害支援について、何度もして欲しいと思います。
- ・熊本の地震があって、実際の活動や支援など考えないと実感しています。
- ・発災時の連携・対応の現状を知りたい。各機関の動き方(包括、社協、住民協、行政等)
- ・漢方薬のことを聞きたい。
- ・小児在宅。
- ・リモート診療の訪問診療への活かし方、多職種との連携の取り方。
- ・2040年問題、松阪市の地域医療構想など多職種と共有したい。
- ・訪問看護の業務内容(多い疾患や処置等)、連携の例。
- ・ケアマネジャーの業務内容、報酬、お願いできること・できないこと。
- ・包括と社協、福祉まるごと相談室の役割の違い、住民自治協議会やコミュニティセンターの役割や活動内容など知りたい。地域資源のことは医療職は良く分かっておらず、どのように連携できるか分からない。
- ・困窮支援、カスハラ対策、終末期の支援
- ・栄養について
- ・意思決定支援、もめんノートの活用方法など
- ・がん、認知症、重複障がい患者への地域移行と在宅療養支援
- ・急性期病院との地域とのつながり、問題点
- ・入退院支援と在宅との壁は本当に改善されたのか?「医療の正しさだけでは患者は救えない」と言い、松阪の在宅医療に魅力を感じると言われた医師の話を知りたい。
- ・サービスや専門職の介入を嫌がる事例など聞きたい。
- ・独居で家族が遠方の高齢者への介入事例など知りたい。
- ・家族や事業所が対応困難な認知症の人の地域の支援の手段や方法を知りたい。
- ・認知症関係の具体的な事例をたくさん知りたい。事例検討や多職種連携を定期的に行なう。
- ・”新しい認知症観”の先進的な取り組みの市町村の事例を知りたい。

⑥第23回多職種勉強会(2026.2.26開催)に参加された方へ

(1)勉強会参加後に現場での意識や行動の変容はありましたか

特に変化なし	2
変化があった	7
その他	2
合計	11

(2)変化があった方、その他の方はどのような変化ですか。

- ・災害時の安否確認方法を模索して、取り組みを検討しております。
- ・他の事業所の取組は自分の事業所にも活用できるものがあったり、専門職だけが災害に対する意識を高めるではなく、利用者自身も災害に対する意識を高めるよう働きかけるとの考え方はとても大事だと感じました。
- ・実際の動きや協力体制など、話し合いができています。
- ・在宅訪問時には、避難所の話をしたり、日頃からの備えの話をしています。
- ・訪問看護やリハビリテーションの部門でサービス時に被災した時のルール作りを検討していた。
- ・どこまで行動に移せたか…は疑問ですが、自身や職場の意識を高めることにはなったかと思っています。
- ・地域で考える姿勢が少し進んだ気がします。